

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 岐阜関ヶ原古戦場記念館活用促進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 岐阜関ヶ原古戦場記念館 企画連携係

電話番号：0584-47-6070

E-mail：c23116@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 36,438千円（前年度予算額：40,000千円）

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	県 債	一 般 財 源
前年度	40,000	7,265	0	0	0	0	0	32,735
要求額	36,438	10,250	0	0	0	0	0	26,188
決定額	36,438	10,250	0	0	0	0	0	26,188

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

岐阜関ヶ原古戦場記念館の開館後の課題は、より多くの方に記念館の情報や魅力を届けて、興味を持っていただき来館していただくことと考えている。

そのためには、SNS（Youtube や twitter）やHP、アプリなどを通じて記念館の情報を発信すると共に、イベント開催などで魅力や認知度を高めていく必要がある。

また、記念館の設置目的である「関ヶ原の戦いに関する理解の増進」を図るため、理解度に合わせた小中高校生への教育プログラム展開を行うとともに、教育旅行誘致のための教育関係者へのプロモーションが求められる。

(2) 事業内容

①PR広報事業

- ・PRグッズの製作（ノベルティグッズ等）
- ・動画制作とSNSによる情報配信
- ・既存のHP、アプリなどの保守管理

②教育プログラム事業

- ・小中学生向け調べ学習キットの開発
- ・ラボ事業（夏休みの自由研究）
- ・教育関係者へのPR（広報資料、モニターツアー実施）

③ 記念館イベント

- ・累計来館者数記念イベント
- ・企画展等と連携した講演会または定期講演会（R2年度から継続）開催

（3） 県負担・補助率の考え方

県が実施する事業であるため、県負担が妥当

（4） 類似事業の有無

岐阜県美術館、岐阜県博物館及び岐阜県現代陶芸美術館における広報事業及び教育プログラム

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	250	先進事例調査、連携調整
需用費	11,368	PR用消耗品（ノベルティ等）、ポスター、リーフレット印刷等
役務費	3,570	旅行会社誘客促進事業
委託料	20,500	広報業務委託（新聞、雑誌、イベントブース出展等）
使用料	750	モニターツアーバス借上
合計	36,438	

決定額の考え方

4 参考事項

（1） 各種計画での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
IIの3 地域にあふれる魅力と活力づくり

（2）次世代を見据えた産業の振興

④ 観光産業の基幹産業化

- ・岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）
基本方針1 ろぎふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成

（4） 事業主体及びその妥当性

県が管理運営する施設での事業であるため県執行が妥当

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・古戦場の整備を通じ、関ヶ原古戦場の更なる魅力を創出し、観光客数の増加を図るとともに、関ヶ原古戦場を核とした周辺地域の周遊観光を振興する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
観光消費額	億円 (H -)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1) ※	3,300億円 (R7)	88.9 %
観光入込客数（実数）	万人 (H -)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1) ※	4,900万人 (R7)	98.0 %
外国人延べ宿泊者数	万人 (H -)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2 %

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

（前年度の成果）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	記念館は開館のみが目的ではなく、いかに運営していくかが重要であり、そのためにも有効な手段を用いて来館者数の増加に努める必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価)	

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>一般的に新規開館した博物館等施設では、いかにして開館後間もない時期に認知度を高め、入館者を確保しうる展示内容や企画を展開するかが重要といわれており、館の魅力や最新情報を継続してPRしていく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>関ヶ原及び西濃地域の観光誘客のためにも継続的に館の魅力や最新情報をPRしていく。また、教育プログラムについては教育関係者や対象児童生徒のニーズ、意見等を取り入れ事業の改善を図っていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	【〇〇課】